（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2171600352		
法人名	特定非営利活動法人　瑠泉会太陽		
事業所名	瑞浪グループホーム太陽		
所在地	岐阜県瑞浪市西小田町４丁目６９番地		
自己評価作成日	平成２３年７月２０日	評価結果市町村受理日	平成２３年９月３０日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171600352&SCD=320&PCD=21

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒503-0864　岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1　モナーク安井307
訪問調査日	平成２３年８月１８日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1.社訓・運営理念・日常五心を、職員一人一人が常に考え、向き合い、言葉にする事で、チームワークの向上、ステップアップに繋げている。
2.自分が受けたいケアを基本に、入所者の立場で考え、スタッフは様々な年齢層の中で様々な気づきを共有出来る
3.頭と心と体で考え実践し、ケアの質の向上に努めている
4.家族も重要な介護者の一員として、入所者に対して共にアプローチし、老いを見守り、一緒に乗り越える事を喜びに帰る事が出来る。
5.看護師による状態観察と医師との連携、速やかな対応と適切なケアには誇りが持てる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「最期まで穏かに楽しく毎日を過ごしてほしい」 管理者の想いを職員が共有し、利用者一人ひとりの思いを尊重したケアが行われている。24時間体制で医療との連携が取れ、さらに看護師も常駐してるため、医療処置の必要な利用者も安心して過ごせる環境にある。昨年の外部評価を踏まえて、この1年間、地域との関わりを密にしながら、運営推進会議の開催を多く進めてきている。参加者も多彩で、家族の代表や市の担当者、地域の人達の参加も多く、内容も徐々に充実してきている。医療連携体制が整っており、医療処置のある方の対応が出来る為、医療・市町村担当者との関係が築かれている。また様々な行事を事業所から地域へ発信し、関係作りを進めている。代表者・管理者は、職員の質の向上のため、社内研修だけでなく社外の研修等へも、積極的に取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3つの理念を掲げ、職員間で理念の意義を確認・共有し、意識して業務にあたっている。	法人としての理念を職員間で共有し、ミーティングなどで職員同士の振り返りをし、意識付けしている。地域密着型として独自の理念にはなっていない。	今後、地域との関わりを率先して行く考えがあり、ホーム独自の地域密着型の意義をふまえた理念を、全職員で検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長さんや地域の民生委員さんと情報交換を行っている。常にホームは開放しており、地域の方に声をかけ、交流している。	散歩時の挨拶や、敬老会への参加、子供達の訪問など、地域と顔馴染みの関係が出来ている。ボランティアの定期的な訪問もあり、区長とは情報交換を密に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	困難事例があれば相談に乗り、適切なアドバイスを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス・取り組み状況等について報告し、サービス向上につながる意見が出た時は、活かしている。	地域包括支援センターや区長・家族の代表などの参加者が増え、ホームの実情などを報告して改善につなげている。昨年の目標達成計画を踏まえ年に3回開催しているが、2ヶ月に一度の会議には至っていない。	積極的な声かけをすることで参加者が増え、内容も徐々に充実してきている。避難訓練時に同時開催するなど、2ヶ月に一度の会議実現に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃から連絡を取り、意思疎通を図っている。	市役所の担当者は運営推進会議に参加しており、利用者の現状を把握してもらっている。医療処置のある方の対応が出来る為、市町村担当者からの依頼や相談等協力体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行なわない方針だが、入所者の安全に支障がある場合のみ行なっている。その場合は、家族と話し合い、同意書を交わしている。	職員は身体拘束の意義を認識した上で、胃ろうのチューブを抜いたり、自傷行為のある方のみ拘束を行うことがある。その際は家族と十分話し合い、同意書を交わしている。日中、少しの時間でも開放できるような取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士が、言葉を含め注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の方を支える上で、制度の必要性は十分に理解している。今の所、制度を必要とされる方はみえないが、今後必要とされる方がみえたら、活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点をしっかりと聞き対応することで解消できている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のケアプラン評価時や面会時に、意見や要望を聞くようにし、コミュニケーションを図っている。	家族の訪問時に出来るだけ意見を聞くように努めている。食事の献立希望や個人的な要望を個別に対応している。運営推進会議での家族の意見も貴重なものと捉えている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が働きやすい環境を第一に考え、ミーティング等で話し合っている。	職員の意見は、日頃のケアの現場や月に一度のミーティング時に、管理者に直接伝えている。提案は代表者・管理者を含む全職員で話し合い、ケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境が第一で、どうする事が良いのかスタッフの自発的な意見をミーティング等で話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大部分がOJTの支援になっている。十分過ぎる位の学ぶ機会があり、育成に繋がっている。法人外の研修会にも必要に応じて参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を通じて得たものを取り入れ、業務に活かしている。事業所の取り組みを伝える事で、他法人の力になれる事もある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入初期は、環境の変化と不安を取り除く様、話を聞いて寄り添うことを大切にして、関係作りには特に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入初期は、頻回にコミュニケーションを取り、思いを理解し、一日も早く不安を取り除ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているか、何を求めているか分析し、出来る限りの対応に努めている。本人や家族の気持ちを大切にし、安心出来るスピードで支援を工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	持ちつ持たれつの関係の構築は重要と位置づけている。気持ちを言葉にして伝える事、皆で支える事を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしか出来ないケアもあるという事を、家族やスタッフが共有し認識し、ケアを提供するうえで、家族の関わりを重要なポイントにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙を送る等の希望があれば、家族の協力を得ながら援助している。面会にはいつでも来て頂ける雰囲気を作っており、関係継続は良好である。	昔住んでいた所へ出かけたり、知人や親戚の人の訪問があるなど、入居者の思いを大切に、馴染みの関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係、全体の和を考えた声掛け、居場所の確保等、工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話のやり取り、必要があれば相談に乗りアドバイスをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の聞き取りは常に行ない、思いや意向を把握している。把握した事を、援助方針に反映させている。	家族の訪問時に希望や意向を尋ねるなど、普段から声掛けに心がけ、信頼関係の構築を図っている。また、必要な時にはキーパーソンとなる方に電話で連絡したり、来てもらうこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から必要な情報を収集し、生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の表情や言動を観察し、わずかな変化に気づき把握する様に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を基に、状態に応じた介護計画を作成している。また、家族来所時には話し合い、計画に反映させている。	穏かな生活を送るためには何が必要かを職員間で話し合い、主に看護師・管理者を中心に介護計画を立てている。毎月、家族の訪問時に確認のサインをもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って、SOAP方式で介護記録を記入し、スタッフ間で情報を共有し、次に繋がる記録として活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊等、柔軟に対応してる。困難・緊急ケースに対しても要望をくみ取り、丁寧かつスムーズに対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア等の協力があり、支援に活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、回診がある。個々の状態や希望によってはホーム以外のかかりつけ医を受診し、必要時には相談し指示を受けたり、サマリーや情報提供書の交換を行っている。	かかりつけ医には家族の協力を得て受診し、その結果は家族から報告を受け、医療との連携を取っている。協力医と必要に応じ相談し、緊急時には夜間でも対応ができる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異常に、早く気付くポイント観察の指導を受け、実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーや情報提供書の交換を行い、本人や家族の支援を行っている。病院での治療に関して相談に乗り、調整を行い、不安の軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態や予測される現状を踏まえて、家族等と話し合い、対応方針を決めている。家族には、事業所で出来る事と出来ない事をしっかりと伝え、理解して頂いている。	重度化に向けて、事業所の対応方針を家族に伝えている。段階に応じて話し合い、最期まで安心して過ごせる体制作りをしている。医療との連携が密に出来ており、事業所で看取りを行ったことがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、それに基づき備えを共有している。過去の事例を含めて、職員間で対応方法の検討・訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行い、内1回は、消防署員の方の立ち合いの下訓練を行い、知識や方法の習得に努めている。近隣の方には、協力が得られる様、話し合っている。	ラコールの備蓄はあるが食料などの備蓄は検討中である。消防署員立会いの下、年2回の消防訓練を行っている。近隣の方にも参加してもらいたい思いはあるが、実施には至っていない。	運営推進会議を通し、地域との協力体制が得られるような働きかけを希望する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員で意識して取り組んでいる。お互いに言葉がけや対応を振り返り、注意し合う事もある。個人情報もしっかり守られている。	排泄介助時には、扉を閉めるなどプライバシーの確保に努め、自尊心を損なうことがないように職員がお互いに注意し合っている。ケア時には優しく声掛けをし、尊重した対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が表出しやすいように、声掛けやコミュニケーションの方法、雰囲気づくりを大切にしている。自己決定した事に対しては、自己責任を持って生活していける様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族・集団生活である為、ルールや決まりごとは守ってもらう様働きかけ、それぞれのペースは見守り、希望に沿えるように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて個別に援助している。 馴染みの美容室へ行ったり、知人が散髪に来て下さったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付け等、一連の動作を一緒に行う事はないが、下準備を手伝ってもらったり、レシピやアイデアを学び、料理に活かしている。	「そうめんが食べたい」という利用者の希望に対応したり、敬老会やクリスマスには家族と共に行事食を楽しむこともある。食事中はBGMが流れ、ゆったりと食事ができる環境作りがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量・バランスを考え、提供している。 必要な場合、血液データを基にコントロールし体調管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の訪問アドバイスを受け、それらを反映した口腔ケアを実施している。いつも、上記関係者より、ケアがいいので入れ歯も入れたまま眠らせる様、指示受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンをつかみ、排泄前の本人の行動や訴えを見極め、気持ちよく排泄できる様に支援している。	排泄チェック表からパターンを把握し、出来るだけトイレ誘導することにより、おむつからリハビリパンツに変わる利用者があった。排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほぼ毎日排便がある様に、医師や看護師と相談しながら、状態に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高齢で疾患もある事から、体調管理を優先し、気候や気温を見ながら対応している。可能な限り希望は聞くが、安全面を考慮して職員の都合に合わせて頂く事もある。	基本的には週3回の入浴とし、希望者には毎日でも対応ができる体制がある。入浴剤を入れて、気分転換を図ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠が確保できる様、日中の活動や臥床時間に配慮している。日中は出来る限り起きていてもらっているが、就寝・起床時間もその時々で違い、状況に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効表を作成し、職員全員が理解出来る様にしている。服薬については、トリプルチェックで誤薬を防止し、薬が変更された時の申し送りと、状態の変化の報告・記録を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持っている力や知識を活かせるよう、声掛け・働きかけを行っている。 それぞれの嗜好品や楽しみ事、気分転換を行なえる様配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は、年齢やADLで難しい場合もあるが、散歩に出かけたりウッドデッキで外気に触れたりする機会を設けている。個別に行きたい所があれば、体調が良ければ実現している。	高齢化や重度化により、日常的に外出することが困難となっているが、花見や散歩に出かけたり、個別に道の駅までドライブに行き、食事をしたこともある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持されている方はみえないが、希望があれば、本人の力に応じてお金を所持し、使える様に援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、やり取りが出来る様に、必要な所をプライバシーに配慮し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭と同じ設備を使用し、不快な雰囲気・室温・臭いなどがないように、落ち着いて過ごせる空間作りを意識している。	廊下の天井に扇風機が設置され、空気のよどみがなく、共用空間は適度な温度調節が行われている。また、不快な臭いは全く感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であっても、個々のその時の気分によって居場所がある様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自が使い慣れた家具を使用されており、本人が大切にしている物が身近にある生活環境を整え、安心して居心地良く過ごせる様に工夫している。	居心地よく過ごせるように、使い慣れたタンスが持ち込まれていたり、家族の写真が飾られている。直射日光を避けるために各居室の外にはよしずが置かれ、利用者への配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、安全な環境である。ADLが維持できる様、個別に柱や手すりを使ったリハビリを取り入れ、活用できる物で可能な力を活かしている。		